

早稲田大学 文化構想学部 日本史 講評

〔総合分析〕

出題形式	マーク・記述併用
試験時間	60分
特徴・その他	大問4つをテーマ史による出題で構成し、全体的に易しめな作りになっている。また、 どのようなわけか近現代はほとんど出題されなかった。易しめな作りなのは、この学部が 旧第二文学部の流れを汲んでいるからかもしれない。このため問題の難易度について は、来年もそれほど難しくはならないだろうと推測されるが、近現代の出題の少なさに ついては楽観視しない方がよいだろう。それは他学部の近現代の割合を考えれば当然で ある。

〔大問別講評〕

番号	出題内容	コメント	難易度
〔 〕	古代・中世の都市	問3を「東大寺」と解答してしまった人は、学習の踏み込みが浅い。1180年のいわゆる南都焼き打ちで襲われたのが、東大寺と興福寺の2つの寺院だったことをまとめて思い出しただろうか。	やや易
〔 〕	古代～近世の法制度	難問は問2。五刑八虐の「五刑」は5つとも覚えておく必要があるが、「八虐」の8つは一般の入試ではめったに出題されないため覚える価値がない。こうした問題に出会うと「やっぱり覚えるべきだ!」と考える人もいるだろうが、それは浅はかである。なぜなら他にもっと出題率の高い事柄が存在していて、それらの習得が満足に完了していないからである。もしそれができていれば、この問題を落としても余裕で9割得点ができただろう。歴史用語の取捨選択は、独学受験生はもちろんだが、出題率を把握していない講師にもできないことである。	やや易
〔 〕	古代～近代の交通	問2はさすがに「移民」という解答は求められていないだろうと考える。一般常識として知らなかった人には難問だろう。他には問3・5・6が受験生の盲点を突く問題であった。	やや難
〔 〕	近世～現代の宗教	問11の正誤問題には焦らされた。早稲田では以前に戦後の靖国神社関係が出題されたことがあったため、またそうした難しい問題かと思わされたのである。実際は何のことはない。よく目をこらして読めば見つかる、小さな誤りが隠されていただけであった。それにしても、これでは某J大学の誤文タイプではないか。	易